

第11回スクールミーティングにおける意見交換内容について

- 1 日 時 平成27年2月2日（月）16時30分から18時00分まで
- 2 会 場 熊本市立力合西小学校生活科室
- 3 参加者 教育委員会 5名（崎元委員長、森委員、泉委員、田口委員、岡教育長）
教 職 員 14名（力合中6名、力合小4名、力合西小4名）
その他教育委員会事務局

4 意見交換のテーマ

- ① 確かな学力の向上について
- ② 健やかな体の育成について
- ③ その他

5 主な意見交換内容について

（◆：質問 ○：意見 ▼：要望）

N o	テーマ	項目	教職員	教育委員会
1	①	少人数指導	▼現在、力合中では2年生の数学の授業でクラスを半分に分けて、少人数指導を行っている。人数が少ないことから指導も行き届き、コミュニケーションもよく取れるため、その他の教科でも実施すれば大変効果的だと思われる。少人数指導にもいろいろな指導方法があり、子どもの状況に応じて考えていく必要がある。実施にあたっては、授業時間数の増加等、教職員の負担も増加するため、さらなる加配を望む。 ○授業時間数が増えるため、加配があっても負担が増加してしまう状況である。 ○子どもの増加に加え、少人数指導の実施によって教室が不足しており、ホールを仕切る等の対応によって教室を確保している状況であり、時間割を考える教務主任の負担も増加している。 ○そのようなやり方も可能である。 ○昨年度は習熟度別で実施したが、今年度は均等に分けて実施している。子どもの特徴、傾向等を見ながら対応している。 ○N R T（全国標準学力検査）の結果を見る限り、効果が出ていると思われる。 ○力合小では、今年度から国語の少人数指導を行っており、指導方法を検討した結果、30人のクラスを10人と20人に分けて指導している。30人のクラスでは発表の機会も限られるが、少人数指導ではその機会が増え、意欲が向上している。	◆少人数指導を行うにあたっては教員が加配されていると思われるが、それでも負担が増えているということか。 ◆少人数指導を行うにあたり、教室数に余裕はあるのか。 ◆少人数指導を行うにあたり、1つの教室で、2人の教員が指導することはできないか。 ◆その際、どのような分け方ができるのか。習熟度別が望ましいのか。 ◆少人数指導の成果はいかがか。

No	テーマ	項目	教職員	教育委員会
			○力合小では、算数でも少人数指導を行っており、様々な方法を検討してきた。習熟度等だけでなく、子どもの希望を聞いて、クラスを分けることもある。少人数指導を行う前はその効果に否定的な考えを持っていたが、実際に指導してみると、有効であることが分かった。日頃は考えたことをなかなか発表できない子どもに対し教員が声をかけることで、その子どもは意見を述べるができるようになり、自信を深めていく。保護者の評価も高く、少人数指導が有効な手段であると感じている。 ○少人数指導で算数を担当していると、子どもが「分かる」ことを喜び、やる気につながっていると感じている。クラスでは発表できない子どもでも、少人数指導で発表することによって、発表に対する苦手意識を克服できるのではないかと考えている。実際、子どもの表情や感想等から、その効果を感じることもある。 ○少人数指導の場合は、子どもの状況に応じて様々なクラスの分け方があるが、少人数学級ではそのような対応は難しい。 ○少人数学級でクラスが分かれてしまうと、別のクラスになった子どもとの交流が難しくなる。 ○少人数指導でクラスを分けた場合は、担当する教員同士の打合せ等、準備に放課後等の時間を割くことになるが、チームティーチングの場合は、主担当の教員をもう一人の教員が補助することになるため、準備に割く時間を縮減できるメリットがある。 ○力合中では、少人数指導を行う場合、各々の教室において、各教員の判断で指導するため、各教員に打合せに割く時間は発生していない。その教室の子どもに適した指導になるよう努めている。	◆少人数学級（35人学級）を導入し、1つの学級が20人程度になった場合の指導の効果は、少人数指導と比較するといかがか。 ◆1クラスを2人で指導するチームティーチングという方法では子どもの発言の機会は増えないが、少人数指導ではその効果が期待できる。しかし、別の観点では、若い教員が増加する中、チームティーチングには、ベテランの教員の指導を学ぶことができるという効果も期待できる。それぞれの方法に長所と短所があるが、どのようにお考えか。

No	テーマ	項目	教職員	教育委員会
			○英語の授業で加配を受けているが、子どもの状況に応じて、少人数指導とチームティーチングを弾力的に運用することは可能か。また、少人数指導でも、英語の場合はテストに影響してくるため、進度や内容を打ち合わせる必要がある。チームティーチングで他の教員の指導を見ることは、教員にとって勉強になると思われる。 ○どの学年で少人数指導を行うかは各学校の判断だが、加配された教員を少人数指導にうまく活用できれば、効果があると思う。	○加配にはチームティーチングによるものと少人数指導によるものがあり、国や県の基準に基づいて実施していく必要があるため、弾力的な運用は困難である。（事務局） ◆少人数学級の拡充にあたっては、教室の確保等、さらなる施設整備を伴うため、相当な予算が必要となる。少人数指導については、教員の加配に伴う予算があれば拡充できる。しかし、拡充にあたっては予算の増額を伴うため、その効果を市議会や財政当局にしっかり示していく必要がある。これまでもモデル校での実施等を通して検証してきたところだが、その効果が見え辛いという課題があり、その点についてはどのように考えるか。
2	①	学力の二極化	○宿題を課してもやってこない子どもは学力が伸びず、二極化が進んでしまう。そのような状況を補完するために、放課後等に補習を行う必要がある。しかし、人的な問題があり、特に部活動を担当する教員は放課後等の対応が難しいので、部活動を担当していない教員がまとめて指導している状況である。 ○私立中を受験する子どもは進学塾等に通って学力を伸ばし、宿題もしない子どもとの差が広がっていく。学習でつまずいた際、家庭での補完が難しい子どもにあっては、クラスのグループ学習等で学びあうことで、多少の差が縮まっているのが実態である。	◆近年、学力の二極化が進んでいると言われるが、少人数指導等により、学力の二極化に対して効果はあると考えるか。

No	テーマ	項目	教職員	教育委員会
			○二極化の背景には支援を要する子どもの増加も一因としてあり、現在の特別支援教育に関する施策のみでは対応が難しい。クラスには学力が伸びない子どもに加え、支援を要する子どももあり、担任が1人で見ていくのは困難である。特別支援コーディネーターとして支援したいが、自らも特別支援学級の担任をしているため、思うような支援ができず、ジレンマを抱えている。少人数指導の教員や教頭に支援してもらうこともあるが、継続的な支援体制がないと、差を縮めることは難しい。そのうえ、近年、担任は、保護者に対する支援も求められるため、本来、子どもと向き合うべき放課後等の時間を、保護者への対応に費やしている状況である。小学校においては、学年主任も担任をしているため、学年で担任を支援することも難しい。 ○（二極化を防ぐ取り組みとして）発言や発表の機会を確保するため、隣の席の子どもとペアになって学習に取り組む「ペア学習」に力を入れている。各学校や各学級でも取り組んでいるが、今後も重点的に取り組む必要があると感じている。 ○本当の学力として、「知識の量」ではなく、「学ぶ力」を育てる必要があり、そこを伸ばすという発想も必要である。それが、学力を伸ばす近道ではないかと考えている。 ○NRTの結果を踏まえ、中学校では、国語のテストを例に挙げると、テストで「何か回答を書く」ことが重要であり、何か書こうと努力する力をつけさせたいと取り組んでいる。そうすればテストの結果にもつながってくると思う。 ○現在の子どもは「聴く力」が不足しており、静かに授業を受けることができない。自分のクラスでは、1年間を通して、姿勢や目線等、「聴く力」が育つよう努めているが、低学年から取り組まないと改善は難しい。「聴く力」があれば、学ぶ力や意見を述べる力もつくと思う。聴かなくても、意見を言わなくても授業が進んでいくことから、このような状況になっていると思う。	◆NRTによる学力の考察についてはいかがか。 ◆「聴く力」とは、音として聞こえない子どもをまずはどうにかしよう、聞けるようになったら、「聴く」、つまり、意味を考えていけるようにしよう、という考え方で良いか。

No	テーマ	項目	教職員	教育委員会
			○そのとおりである。また、特別支援学級での指導の視点も必要で、授業の段階や今後の見通しをを分かりやすく示すことも重要である。言葉だけではなく、写真を活用する等、授業の工夫も必要である。 ▼支援を要する子どもにとって非常に効果があると思われる。今後は支援の回数、人数等を増やしていただきたい。 ○学力の向上には教員の指導力を高めることが必要である。「聴く力」、意見を述べる力等を向上させるには「ペア学習」が効果的であり、学校全体で取り組んでいくことが重要であることから、校内研修を充実させていくべきだと考えている。	◆学級支援員の効果はどうか。
3	②	歯磨きや手洗いの励行	○歯磨きや手洗いの習慣づけが必要だが、力合中には手洗い場が少なく、指導が困難である。現在、各学年に1箇所しかなく、給食の時間等、同じ時間に子どもが集中する場合は大変混雑している。	
4	②	子どもの体力向上	○力合小では、始業前の時間を利用して、週3回、ランニングをしている。公園での遊びに制限があり、スマートフォンや家庭用ゲーム機が普及している現代において、子どもの運動の機会は減少しており、学校生活でそのような機会を設けることが望ましいと考えている。 ○力合中では、休み時間等を活用して長なわとびに取り組んでおり、記録会も行っている。体力が低下している原因として、運動経験が少ないことが挙げられる。 ○力合西小は、運動に対する意欲を育み、様々な経験をさせることを目的として、体育委員会の活動で体力向上に関する取り組みを検討し、学校を挙げて実施している。一例では、運動会のラジオ体操をくまモン体操に変更し、練習の時間を確保するため、始業前に体育館を開放した。最初は少なかった参加者が少しずつ増えるとともに、運動会の練習時間も削減できることから、良い取り組みだったと思っている。これからは単発ではなく、総合的な取り組みとして検討していきたいと考えている。 ○体育委員会の決定として取り組むとともに、全学年の子どもが参加しやすい時間を設定した。設定にあたっては、職員会議で説明し、合意をいただいた。	◆どのようにして学校全体の取り組みとしたのか。
5	②	子どもの食生活	○生活習慣の問題として、偏食の子どもが多く、給食でいろいろなものを食べて欲しいと考え、指導に取り組んでいる。	

N o	テーマ	項目	教職員	教育委員会
			○食べている内容は分からないが、概ね朝ごはんを取っているのではないと思われる。	◆朝ごはんを食べる習慣はいかがか。
6	②	運動部活動のあり方	○力合西小では、保護者も運動部活動に協力的で、試合結果のみを重要視することも無い。学校規模も適当であり、部活動を通して異学年の交流ができています。しかし、学校規模が大きくなると、各学年で活動することになるため、どこに軸足を置き、何を目標として活動するかが課題になる。 ○子どもの体力が低下しているのは明らかで、学校教育で運動の機会を確保することが重要である。その際、運動の機会だけでなく、量を確保し、体を鍛える必要がある。体育を活用することはもちろんだが、教員の負担は増えるものの、運動部活動にはそのような役割もある。 ○運動部活動の指導はとても楽しいが、教員にも指導できる種目とできない種目がある。また、力合西小では「部活動をしない日」を定めているため特に問題は無いが、小学校で運動部活動を担当する場合は、土日等の実施を含め、拘束される時間が教員の負担になっている。 ○運動部活動の指針に沿って実施すれば、それほど負担にはならない。また、部活動とクラブチームでは力の差があるものの、サッカーの場合は、部活動とクラブチームでは出場できる大会が異なるため、そこまで支障は出ていない。しかし、野球の場合は、部活動とクラブチームが同じ大会に出場することが多いため、保護者にとっては力の差が問題になりがちである。	◆運動部活動のあり方についてはいかがか。 ◆運動部活動は、子どもの運動の機会が少なくなっている状況において非常に有効だが、一方で教員の負担が増加するとも言われている。熊本県が運動部活動を社会体育で担っていくという方針を打ち出す中、何か意見はあるか。
7	③	心の教育	○心かがやけ月間に、挨拶をする際、必ず名前を呼ぶ取り組みを始めた。その効果として、子どもが、相手の目を見て挨拶するようになった。今後もこの取り組みをしっかりと続けていき、「徳・知・体」のバランスの取れた子どもを育てていきたい。	

(◆：質問 ○：意見 ▼：要望)

N o	テーマ	項目	教職員	教育委員会
8	③	教員の負担軽減	▼いじめを防止するために、市が定期的を実施するきずなアンケートに加え、12月には心のアンケートやゆうチャレンジ（熊本県学力調査）が実施される。この時期には学校評価の調査に加え、通知表の作成も重なっていることから、アンケートや調査等の実施等について、工夫できないか。	○ゆうチャレンジには子どもが学力をつけるために良い問題もあり、有効ではないかと考えている。きずなアンケートは、学校がいじめの実態を把握するために行っているもので、集計の必要はないが、心のアンケートは、集計が必要であることに加え、県と合わせて12月に実施していることから、教員に負担をかけていることは承知している。心のアンケートについては、より負担の少ない時期での実施等を考えていきたい。（事務局）
9	③	教室の新設	▼力合中では、新設された教室の日当たりが悪く、学習面や健康面でも望ましくないと考えている。教室の新設を行う場合は、学校の意見をしっかり聞いて、対応してもらいたい。	